

Mado 窓

新年号
2012



新年のご挨拶 —北里大学病院近況ご報告—

北里大学病院長 藤井 清孝

皆様、新年あけましておめでとうございます。

北里大学病院は1971年7月に開設され、当時東洋一と称された巨大な病院も既に40年以上経過しました。昨年は3月11日に東日本大震災が起これり、たくさんの被災者の方々の悲惨な状況に胸を痛み、何かを行動せずにはおれないような貴重な経験をいたしました。2011年は大学病院開院40周年、大学東病院開院25周年を迎える年でしたが、しばらく行事を自粛し、被災地の復旧・復興を願いました。その後、被害の全貌が少しずつ明らかとなり、復興の道のりが垣間見え、私共の日常の活動を取り戻すことが被災地にとっても大きな支援となると確信するようになりました。相模原市は震度5弱で大学病院も被災しましたが、幸いに比較的軽度で済みました。そのため延期していた周年記念行事として、11月10日に記念祝賀会を開催いたしましたところ、地域行政、医師会、病院協会の関係各位の皆様をはじめ、たくさんの方々にご参加いただきました。特に病院OB・OG各位にもご参加いただき、“帰し方”を懐かしく振り返り、病院や地域、さらには日本の“行く末”を想いながら話がはずみ、盛大にお祝いすることが出来ました。設立以来これまで北里大学病院ならびに東病院に賜りました数々のご支援、ご厚情に改めて御礼を申し上げます。

40周年記念誌にも述べましたが、学校法人北里研究所は2014年に創立100周年を迎える予定であり、その記念事業の目玉としての新病院建設が始まっています。昨年8月28日に地鎮祭、9月29日に着工式を行い、相模原キャンパスは日に日にその姿を変えつつあります。工事が順調に進めば2013年(平成25年)12月に病院本体が完工し、翌2014年5月連休明けに新病院開院の運びとなります。

その後、新棟や東病院の改修などが進められ、今回の新病院プロジェクトの完成は5～6年先という大変遠大な計画となっています。今回の新病院は、その理念として開設以来の「患者中心の医療」、設立30周年時に追加された「共に創りだす医療」を堅持し、患者様のため、地域のため、国のため、そして次世代の教育病院として「成長する病院」を目指していきます。また、新東病院ではさらに“人としての尊厳維持”“自立支援・回復支援”などを掲げ、より地域のお役にたてるよう診療部門の品ぞろえ、組織の活性化を図り、地域の皆様方と連携協力して両病院が真に地域基幹病院としての役割を果たしていけるよう準備を進めてまいります。

北里大学では2008年4月の法人統合以来、4病院体制となりました。首都圏である神奈川県(北里大学病院・大学東病院)、東京都(北里研究所病院)、埼玉県(北里研究所メディカルセンター病院)に合わせて2,200床を超える病床を持ち、地域医療を進め、卒前卒後の臨床教育研修病院としてのさらなる充実を目指しています。それぞれの病院の持ち味・特徴を生かした診療・教育研修を行い、現在、交流をさらに増やしているところです。

わが国は少子高齢化社会に入り、生産人口の減少と共に高齢者人口が増加し、今後15年から20年は税収の減少、年金・医療などの社会保障の大きな負担で大きな苦難を迎えますが、弱者、高齢者に配慮し、皆で助け合って明るく生きていける社会の形成に北里大学両病院は全力を挙げて貢献していきたいと考えます。

末筆ながら関係各位の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念し、併せて北里大学両病院への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

(ふじい きよたか：脳神経外科学 教授)

北里大学の病院新情報システムについて



北里大学病院 病院長補佐 村田晃一郎

2012年元旦から稼働する北里大学病院、北里大学東病院の新情報システムは、「診療の流れを止めない」、「大学病院と東病院のシームレスな情報統合」、「診療情報の一覧性確保とチーム医療への対応」、という大きな三つの大きなコンセプトのもとに構築されています。「診療の流れを止めない」という観点からは、システムのレスポンス問題と複数スタッフによる同時オペレーションの問題が最も大きな課題でした。一分一秒を争う医療の現場では、複数の医療行為が同時進行することが多く、データ参照や指示入力を平行して行うことが望まれて来ました。しかし、複数のスタッフが同時に処理をすることは医療安全上問題が生ずる可能性があり、旧来は一人の患者さまに対して一人のスタッフだけが指示入力出来る様、排他処理と呼ばれる制限をかけてきました。これに対して、iPadなどの参照用携帯端末の導入と様々なレスポンス向上策を講じた結果、排他処理の制限を解除する目処がたちました。今後、稼働後の状況を見ながら運用を再検討してゆきたいと考えています。また、大量データ参照時のレスポンス遅延の問題は、パーティショニングという新しい技術の採用により表示までの時間短縮が見込まれています。さらに、新たな情報端末として投入されたiPadについては、移動できるディスプレイとして使用するだけでなく、可搬性を生かしたさまざまな使い方がありうろと考えています。従来の枠組みや使用法に捕らわれることなく、現場のアイデアを生かし様々なシーンで縦横無尽に活躍することを期待しています。

二つ目のシームレスな情報統合は、今回のシステムの目玉でもあります。クリックするだけで大学病院と東病院の検査結果や診療録が、患者番号の違いを意識せず相互参照できるのみならず、電子カルテシステムの大部分の操作が北里4病院共通となりま

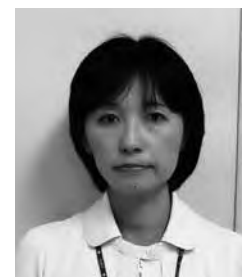
す。今回、北里研究所病院、北里研究所メディカルセンターの情報も参照可能となるため、稼働後に4病院で運用の協議を行うこととなります。さらに、参照の仕組みは電子カルテやコンピューターのメーカーに依存しないことから、柔軟なシステム構成が可能となります。これらの経験は、近い将来、地域の医療機関の皆様との連携医療や患者様との情報連携を実践するための大きな礎になるでしょう。

最後は、「診療情報の一覧性確保とチーム医療への対応」です。最近まで、異なったメーカーのシステムを簡単に連動させることは難しく、並べて見るだけでも多くの障害を乗り越える必要がありました。現状でもこれらの壁がすべてなくなったわけではありませんが、様々な検査結果や診療情報を時系列のマトリックスで一覧表示出来るようになりました。加えて、チーム医療実践のための横断的データ参照システムも導入致しました。原則個人単位でしか参照できなかった診療情報を、チーム単位で横断的に一覧表示する機能です。チームのラウンドや検査前後のチェックなどにも応用可能と考えています。

これまで単機能の無骨な集合体であったコンピューターシステムが、「少しだけ医療スタッフの傍らに寄り添う力を備えてきたかな?」、と試してみたりするこの頃です。さて、皆様の印象は如何でしょうか。

(むらた こういちろう：病院長補佐)

診療アシスタントについて



看護部 外来主任 古庄 清美

現在 北里大学病院では平成26年開院予定の新病院建築工事が進んでいます。当院では入院前から患者さまの退院後を見据えた患者サポートを行い、患者満足の上昇を図ることを目的とした『TSC (Total Support Center)』と並び、診療の質の向上を目指し、診療の補助業務を行う、『診療アシスタント』の導入が大きな変化になります。

平成20年度の診療報酬改定で医師事務作業補助者加算が新設され、医師の事務作業を補助する専従者を配置することで医師の負担軽減を確保する体制の認可がスタートしました。大学病院はこの加算の対象ではありませんが、医師・看護師が本来の業務を遂行できない状況に変わりはありません。

大学病院としての機能を十分に発揮するために様々な事務作業を補助する部門が必要とされ今年度から看護部の外来で育成する運びとなりました。現在は10名のスタッフが新病院開院時には30名の増員になる予定です。スタートしたばかりなので院内職

員の認知度も低い現状ですが今後に期待が寄せられている部署です。業務内容は従来看護師が行っていた業務を中心に診療の補助、診察室のバックヤードで現在7診療科へサポートをしています。医師事務作業補助者とは違い、看護師業務、受付業務の補助を行わないという縛りが無いために様々な状況で必要とされ、北里独自の診療支援のスタイル、診療アシスタントを目指しています。スタッフは経歴もスキルも様々で、医療関係の仕事が初体験の者もあり、どの科にも共通するスタンダード業務から始まり、教育・育成の途上です。医療現場の難しさに直面し、業務に行き詰まることもありますが、患者さまから「北里で診てもらってよかった」「また北里にかかりたい」と言って頂けることを目標に、日々励まし合いながら頑張っています。新病院開院までにはさらに様々なスキルを身につけ、外来のチーム医療の要になるよう努力をしております。

(ふるしょう きよみ：看護部外来 主任)



アシスタントの大川さんと坂本先生

病院ボランティアの紹介

患者支援センター部 ボランティア担当 中溝 一男

当院のボランティア組織は、平成5年4月に誕生しました。延活動登録者は1,000名を超え、昨年度の活動時間は9,573時間、延活動者は1,139名でした。主な活動の内容は、①外来受診の案内②病棟内の作業③患者さんに直接接しない作業（検体ラベル貼・衛生材料の処理等）④図書配本サービス⑤活け花⑥音楽ボランティア⑦コスメティック等となります。ボランティア活動を支えているのは、「ボランティア業務委員会」のメンバーです。当センター部の下部組織として関係職員（看護職・ケースワーカー・事務職）で組織されています。事務的な事柄は事務職員が担当し、ボランティア内部の調整や取り纏めはボランティアコーディネータが行っています。新規の活動者の受入れや配属先の調整等を両者が協力して担当しています。

長年の活動者に対して日本ボランティア協会では、1,000時間活動表彰をしています。本年度は3名の対象者を推薦しました。その結果、10月27日にホテルウィーナ大坂に於いて表彰が行われました。ボランティア活動では、活動1,000時間の達成は一つのステータスであり素晴らしい業績にあたいします。当院における活動1,000時間の達成者は、今回の3名を加えて35名を越えました。このように当院のボランティア活動は長い歴史とベテランが多く在籍し、患者さまと病院をつ

なぐボランティアとして活躍して頂いております。

若い世代の活動としては、「ボランティア活動単位認定」として県立麻溝台高校の生徒の受入れをしています。大学生では、北里大学「病院奉仕団」が小児系の病棟を中心に長年活動しています。七夕やクリスマスの時には、病院奉仕団の他に各文化系サークル（ジャグリング・ハンドベルクワイヤ等）の学生にも活動をして頂いております。また、本年は北里大学医学部（医学原論）1年生の地域を対象とした実習の一環としてボランティア活動の見学実習の受け入れをしました。ボランティア活動という違った視線で患者さまに接する機会を得て、医者を目指して入学してきた学生達には良い経験となったようです。

今後も患者さんと病院をつなぐボランティアとして活動ができるよう、ボランティア業務委員会・ボランティアコーディネータと協力してより達成感が得られるよう環境作りに努め活動がより活発になるようにしたいと考えています。

最後になりますが、日頃のボランティア活動に沢山の援助を頂戴しております、病院ボランティアの皆様にご紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。

（なかみぞ かずお：患者支援センター部 係長）

患者支援センター一部病診連携担当者より

あけましておめでとうございます。

旧年中は、当院の地域連携の業務にご協力を頂きましてありがとうございました。昨年は、東北地方を襲った未曾有の災害で大変な年となり、あらためて地震災害の猛威を思い知らされました。

今回、ご紹介しましたが元旦よりコンピュータのシステムが変更され、電子カルテが導入されました。北里大学東病院も同じシステムが導入され相互に情報交換もより緊密に出来るようになります。

さて、昨年当院では9月よりがん地域連携パスの運用を開始しました。取扱いの件数はまだまだ実績を上げることが出来ていませんが引き続きご協力をお願い申し上げます。

最後に皆様の一年間のご多幸をお祈り申し上げます。

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学病院 患者支援センター部
TEL 042-778-9988 FAX 042-778-9599
<http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>
E-mail / shoukaiw@kitasato-u.ac.jp